



が理解できる。

- (3) 地層に近づいてその特徴を観察させる。

④層は粗い砂からできている地層で、部分的に1～2cm大の珪石の円レキを含んでおり、また、うすい白っぽい凝灰岩質の粘土層をはさんでいます。これらのレキ層や粘土層は、斜め模様の斜交葉理を示しています。

③層は淡黄色の砂層で、白っぽい、うすい凝灰岩質の粘土層をはさんでいます。

②層は茶褐色の砂レキ層で、白っぽい、うすい凝灰岩質粘土層をはさんでいます。

これらの地層は第四紀の洪積世の中頃、県南一帯に広がる湖の底に積もった地層で、砂レキや、斜交葉理から、当時は湖の淵近くの環境であったと推定できます。

## 2、川原のようすと流水のはたらき

- (1) 観察する場所

新玉川橋近くの川原

- (2) 土手の上から川原の様子や水の流れを観察する。

- ① 土手の上から川の全景をスケッチする。
  - ② はらん原や州、水の流れている幅など気付いたことを書き入れる。
  - ③ ②の附近のはらん原は流水でけずられています、①の附近では州ができている。この違いはどうして生れたのか、話し合う。
- (3) 川原に下りて、流水のはたらきを調べる。

